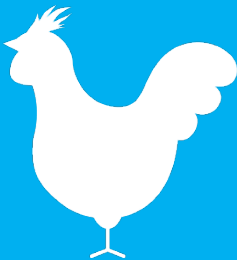


■ 鶏

現状と
課題

- 多様な消費者ニーズに対応した鶏卵・鶏肉の安定供給と生産コストの低減等に資するため、国産鶏種の改良・増殖等に引き続き取り組むことが必要。
- 輸入規制等のリスクに備え、国内育種資源の多様性及び選択枝の確保並びに外国種鶏の国内における安定供給が重要。

主な
方向性
(案)



【能力に関する目標】

- 卵用鶏 長い期間、高い産卵性を維持する改良を推進するとともに、地域の消費者ニーズ等を踏まえ卵重量等の目標で幅を持たせる。
- 肉用鶏（ブロイラー） 生産コストを低減するため、飼料要求率と育成率の改良を推進。
- 国産鶏（地鶏等） 特色ある品質を保持しつつ、合理的な価格水準での供給が図られるよう生産コストの低減を推進。

【能力向上に資する取組】

- 改良手法等 ➤ （独）家畜改良センターや都道府県が所有する原種鶏を活用して、増体性や産卵性が高い種鶏を造成し、安定的な雛の生産と供給を推進。
 - 遺伝資源の保存や改良増殖に資する始原生殖細胞(PGCs)の保存等技術の習得及び普及体制について、関係者間で相互に補完できるよう体制の構築を図る。
 - 国産鶏の独自性に配慮し、生産性の向上を図るため、攻撃性等を低減させる改良手法を探索。